

喜 楽  
長



保田 邦雄

国の制度と地域金融機関が連携した中小企業支援の仕組みである「新現役交流会」を立ち上げ、今日に至っている。今では多くのご支援を得て活用が進み、おかげさまで2015年までの累計で約2200社が参加し、そのうち1100社が企業OBなどからなる「新現役」7700名超とマッチングを行っている。

2003年に中小企業庁が創設した「新現役登録制度」に発想を得て、2009年に始まった新現役交流会は、フエース・トウ・フエースを基本に、中小企業に面談の機会を提供する。中小企業が抱える課題や悩みを一緒に解決する「仕組み」や「仕掛け」、組織を創れないか、と思ったことが、この活動を始めた原点にある。

それから8年。この間に少子高齢化の進展や中小企業の減少、彼らの人手不足も進み、海外に目を向ける中小企業が増加した。地域金融機関へのニーズも高度化している。地域金融機関の企業評価手法に事業性評価の考え方が取り入れられたことで、企業に寄り添

## 経営者・新現役・金融機関を元気に

う姿勢や中小企業の経営高度化に必要なノウハウや知識、経験を有する人材の紹介など、地域金融機関による中小企業支援の重要性は増している。

そこで金融機関がより実効性のある中小企業支援を行うための組織が必要ではないかと考えた。2月22日には「一般社団法人 新現役交流会サポート」を立ち上げた。

これまで金融機関が手がけてきたさまざまな支援策が中小企業のニーズに必ずしも見合ったものであったとは言えない面もあり、そのための方法論も確立していなかった。われわれは交流会を通して、さまざまな経営課題に直面している中小企業の経営をサポートできるものと確信している。

無尽蔵の埋蔵資源である「新現役」は数十年に及ぶ社会人生活を通して、無限の力やアイディア、企業に活力を与える情報やノウハウをそれぞれが持っている。これらを企業の経営改善に生かさない手はない。

決算書などは二の次。過去の数字よりも元気になれるパワーを得てもらうことに、活動の重点を置いて取り組みたい。経営者から「よし、明日からまた頑張ってみよう」と思ってもらえるよう、中小企業の悩みや課題解決につながるお手伝いができれば、と考えている。

（やすだ・くにお 一般社団法人 新現役交流会サポート代表理事）